

景気動向調査の概要について【2025 年 1～3 月】

令和 7 年 4 月 24 日
富山商工会議所

景気回復への期待が感じられるものの、長引く物価高騰やアメリカの政策動向などの影響を懸念

景気の現況は前回調査で最も多い「足踏み状態」が 57.7%と前期比 4.4 ポイントの微減となる一方、「緩やかに回復している」は 38.5%と前期比 14.4 ポイントの増加、「分からない」は 3.8%となった。

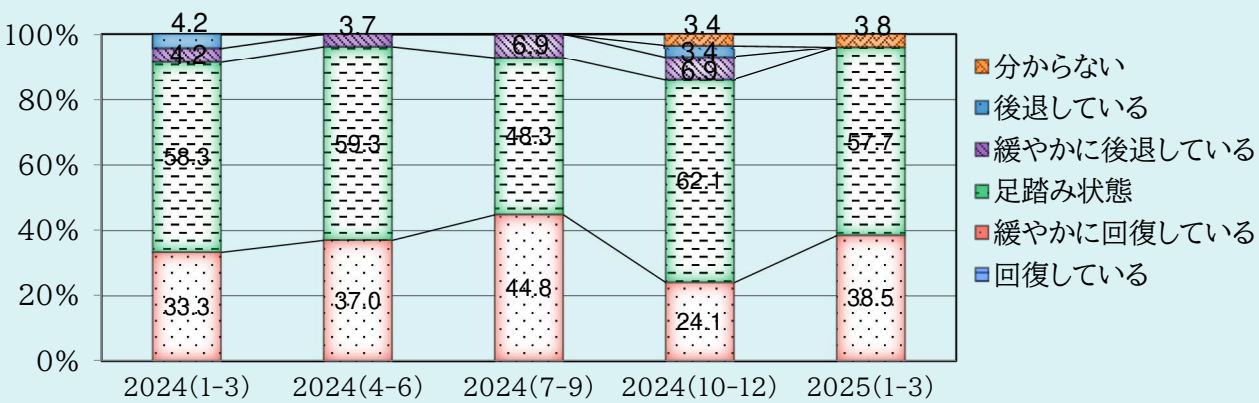
今期の業況判断 DI は、11.1 ポイント増加の 7.7（前期△3.4）、来期の見通し DI も 15.8 ポイント増加の 19.3（前期 3.5）となるなど、景気は全体的に引き続き底堅い動きが続くなか、持ち直しへの期待が感じられる結果となった。一方で、長引く物価高騰による個人消費の停滞、アメリカの通商政策動向、金融資本市場の変動等の影響がリスク要因として懸念される。

製造業では海外向けの自動車関連部品が堅調に推移しているほか、医薬品包装資材はジェネリック医薬品の受注増加の影響で好調となった。一方、欧州・国内では建設機械の需要が停滞したほか、中国経済の低迷から、顧客の在庫調整の長期化などの影響で、産業機械や化粧品包装資材など一部の輸出関連商品が低調となった。

非製造業では、身の回り品や雑貨などが富裕層の購買意欲が依然堅調な影響から好調となったほか、土産品や贈答品などはインバウンド消費の効果、不動産（住宅など）や海外旅行では、物価高騰で控えていた潜在的な需要の回復が見られた。一方で、長引く物価高騰の影響から節約志向が一層高まっており、食料品や衣類品などは消費を抑える傾向が続いている。

また、「金利のある世界」について自社の影響を聞いたところ、「大きな影響は無い」との回答が見られた反面、「借入金利息の増加により自社のコスト増に加え、取引先の資金繰りにも影響を与える可能性がある」「節約志向の高まりによる個人消費の懸念」「棚卸資産の削減や余剰資金の圧縮などの取り組み強化」といった意見が見られた。

1.景気の現況について(四半期ごとの推移)



2.前期との比較と来期の見通し

		2024年1-3月期	2024年4-6月期	2024年7-9月期	2024年10-12月期	2025年1-3月期	2025年4-6月期
前期比	好転	29.2	40.7	31.0	20.7	30.8	-
	不変	41.7	44.4	44.8	55.2	46.1	-
	悪化	29.2	14.8	24.1	24.1	23.1	-
	DI	0.0	25.9	6.9	△3.4	7.7	-
来期の見通し	好転	35.7	25.0	25.9	20.7	20.7	30.8
	不変	50.0	64.2	59.3	72.4	62.1	57.7
	悪化	14.3	20.8	14.8	6.9	17.2	11.5
	DI	21.4	4.2	11.1	13.8	3.5	19.3

<実施要領>

1. 調査期間 2025 年 3 月 17 日～2025 年 3 月 31 日
2. 調査対象 当所景気モニター企業 29 社
3. 調査方法 調査票を郵送し FAX 又は Google Form で回収
4. 有効回答数 26 社（回収率 89.7%）